

朝日大学病院を受診された患者さまへ

研究情報の公開について (オプトアウト)

通常、臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明し同意をいただくこととなっています。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いる研究等については、国が定めた指針に基づき対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありませんが、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。このような手法を「オプトアウト」といいます。オプトアウトを用いた臨床研究は下記のとおりです。なお、研究への協力を希望されない場合は、下記文書内に記載されている担当者までお知らせください。

研究課題名	日本における集中治療室入院患者に対する早期離床の実態調査 Early Mobilization Practices of Adult Patients admitted to ICU in Japan: A one-day Point-Prevalence Study (EMJ PoP study)
当院の研究責任者 (所属)	福田吉辰 (リハビリテーション部 理学療法士)
他の研究機関および各 施設の研究責任者	研究代表者 杏林大学保健学部 所属：保健学部 リハビリテーション学科 職名：助教 氏名：松嶋 真哉
本研究の目的	日本の集中治療室に入室している重症患者における離床実施率を明らかにする
調査データ該当期間	2023年8月01日～2026年03月31日
研究の方法(使用する 資料等)	集中治療室活動度スケール (Intensive Care Unit Mobility Scale:以下 IMS) 各施設の ICU 入室患者に対して、指定した日にどの程度、離床・リハビリ テーションを実施していたかを IMS を用いて評価する。ベッド上の運動を 実施していた場合は、関節可動域練習、神経筋電気刺激療法、ベッド上エル ゴメータなど

	<p>何を実施したのか聴取する。また、離床実施時の有害事象の有無も聴取する。</p> <p>離床の阻害因子</p> <p>離床が実施できていなかった場合は、離床の阻害因子について以下のものから選択して頂く。病態的な障壁、精神神経的な障壁、人的な障壁、システム、環境的な障壁など</p>
試料/情報の他の機関への提供	共同研究者に提供する可能性があるが個人を特定することはできません。
個人情報の取扱い	得られた情報はすべて匿名として扱わせていただきます。年齢・性別の公開は可能性としてありますが、個人に不利益や危険性が及ぶことはございません。
本研究の資金源(利益相反)	利益相反無し
お問い合わせ先	<p>当院の研究代表者</p> <p>リハビリテーション部 理学療法士 福田吉辰 (058-253-8734)</p>
備考	<p>【共同研究機関】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 杏林大学医学部附属病院 リハビリテーション医学 山田深 2) 福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部 野々山忠芳 3) 関西電力病院 リハビリテーション科 松木良介 4) 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部 宮城島沙織 5) 長崎大学病院 リハビリテーション部 花田匡利 6) 川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 佐藤 宏樹 7) 長崎大学 生命医科学域 (保健学系) 柳田頼英